

第32回(2022年)
全国花のまちづくりコンクール

花博の理念を継承してこの事業を推進しています



提 唱

農林水産省
国土交通省

主 催

花のまちづくりコンクール推進協議会

〔公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 公益財団法人都市緑化機構
一般財団法人日本花普及センター 公益財団法人日本花の会〕

後 援

文部科学省 全国知事会 全国市長会 全国町村会 (一社)日本経済団体連合会 (一社)日本新聞協会 **NHK**

協 賛

(公社)園芸文化協会 (一財)沖縄美ら島財団 (一財)公園財団 (一社)JFTD 全国公園協会協議会
(一財)地域活性化センター (一社)日本インドア・グリーン協会 (一社)日本植木協会
(一社)日本花き卸売市場協会 (一社)日本花き生産協会 (公社)日本家庭園芸普及協会
(公社)日本観光振興協会 (一社)日本公園施設業協会 (一社)日本公園緑地協会 (公財)日本さくらの会
(一社)日本施設園芸協会 (一社)日本種苗協会 (一社)日本造園組合連合会 (一社)日本造園建設業協会
(一財)日本造園修景協会 (公社)日本フラワーデザイナー協会 (一社)日本ホテル協会
(一財)日本緑化センター (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会

お問い合わせ先

コンクール事務局 公益財団法人日本花の会
〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6 コマツビル TEL 03(3584)6531 FAX 03(3584)7695
<https://www.hananokai.or.jp/city/>

表紙の写真 第32回(2022年)全国花のまちづくりコンクール 大賞受賞者

上段左 鳥山 順子 / 上段中 水田 進 / 上段右 野間大池公園花学校
下段左 牧之原市立萩岡小学校 / 下段右 高島 孝子・直宏・千鶴

第32回(2022年)

全国花のまちづくりコンクール

報告書



花のまちづくりコンクール推進協議会

第32回 (2022年) 全国花のまちづくりコンクール 受賞者一覧

応募者数 694 件 (市町村部門 4 団体部門 422 学校部門 129 個人部門 114 企業部門 25)

花のまちづくり大賞 (5件)

農林水産大臣賞

個人部門 鳥山 順子

個人部門 水田 進

国土交通大臣賞

団体部門 野間大池公園花学校

個人部門 高島 孝子・直宏・千鶴

文部科学大臣賞

学校部門 牧之原市立萩間小学校

花のまちづくり優秀賞 (12件)

市町村部門 鴻巣市
館山市・株式会社塚原緑地研究所

団体部門 伊賀野の花畑
エコガーデンはるひ野
あじさいボランティア
富山市立新庄北小学校 & 地域団体
天浜線 人と時代をつなぐ 花のリレー・プロジェクト
上丹生プロジェクトK
広棚 花の里グループ

個人部門 福田 具可
佐野 誉志照・恵美子

企業部門 セブンイレブン潮芦屋店

花のまちづくり奨励賞 (9件)

団体部門 高岡市立醍醐公民館 花と緑の推進部会
松崎町花の会
NPO 法人にじのかけ橋
下里とも子ガーデン

学校部門 五霞町立五霞中学校
長岡市立桂小学校
掛川市立千浜小学校

個人部門 末松 和佳子
寺尾 康男・桂子

花のまちづくり入選 (55件)

団体部門	大湯「パンジーの会」	しもつけオープンガーデンクラブ		
	上中の原団地ボランティアグループ	上堀駅を愛する会		
	前沢カンナロード実行委員会	北部花緑愛好会		
	小瀬戸花いっぱい会	伊豆の国市商工会女性部		
	緑地花壇の会	グルッポふじとう地域住民サポーター さくらクラブ		
	社会福祉法人陽和福祉会 どんぐりの森	風花待夢		
	いきいき刈谷友の会 ガーデニング部会	特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワーク		
	緑花クラブK O B E	網干公園みどりの会		
	名塩さくら台景観緑化クラブ	伊丹市フラワーリーダー同好会 8 期生		
	寺本自治会 華の部	鶉野中町花家族の会		
	田辺市神子浜町内会	古尾花の会		
	岩出市まちづくり協議会 花のまち IWADE 委員会	花てまりの会		
	ふれあいガーデン「くすな」	横川第二公園園芸クラブ		
金田第一町内会	諸富花いちもんめの会			
学校部門	桑折町立醸芳小学校	海南市立巽小学校		
	みなべ町立高城小学校	認定こども園 高見の森保育園		
個人部門	後藤 光三・圭子	鈴木 洋一	松本 茂治	中西 忠義
	齋藤 等・昭子	益田 満智子	諏訪 早苗	房谷 弘之
	三村 雅之	奥川 きみ子	尾花 幸雄	刈尾 安正・希美子
	松浦 さつき・千春	太田 よしの	桐原 将臣	那須 幹夫
	佐々木 裕哲	森 千明	石津 康子	石井 康子
	企業部門	一般社団法人御堂筋まちづくりネットワーク	東京電機工業株式会社	
	戸畑なかしま歯科			

花のまちづくり努力賞 (7件) … 地域の花のまちづくりに協力・参画している活動を選賞します

年輪賞	団体部門	花と緑の銀行 上市支店 かわづ花の会 田中地区花壇
	団体部門	社会福祉法人さつき福祉会 さつき障害者作業所
四つ葉賞	市町村部門	藤枝市花と緑の課・蓮華寺サポーター
	団体部門	東鷹栖集落・JA たいせつ女性部 しらかわバラの会
	企業部門	有限会社豆蔵

特別賞 (3件) … 当コンクールにおいて入賞回数規定回に達した継続的な活動を特別に称えます

シルバー賞 (入賞回数 5回)	学校部門	五霞町立五霞中学校
	個人部門	佐野 誉志照・恵美子 三村 雅之



コンクール審査委員長
齋藤 京子

今年の第32回全国花のまちづくりコンクールの総応募数は694点となり、昨年より337点減少しました。コロナ禍の影響により、各自治体での花のまちづくりコンクールの中止や、特に団体部門の減少が大きいのは、一定人数での活動の難しさもあるかと思えます。一方、学校部門は129点の応募があり、多くの子どもたちが花を育てる楽しさを知ることは今後に大いに期待が持てます。

今年から、応募用紙の記載方法を見直し、項目ごとに写真を添付するようにしました。従来と異なる書き方に戸惑われた方もおられたと思いますが、全体的には、活動内容とその考え方がわかりやすく書かれた応募書類となっておりました。ありがとうございました。

この度、栄えある各賞を受賞されました皆さまへ、心からお祝い申し上げます。そして、このコンクールにつながる全ての皆さまに、この場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございました。更に、3年目となるコロナ禍での活動を見守り支えていただいている関係者・関係機関・団体などの方々にも心より感謝申し上げます。

「花の持つ力」を活かして賑わいづくり…街角・公園・学校・山の中や島にも

今年の応募書類と現地審査から感じましたのは、「花の持つ力」のすばらしさです。「花の持つ力」で逆境を一転させ、多くの人を訪れる潤いと癒しを感じる、賑わいのある場所に変えていました。駅前の殺風景な空き地、買い物だけのコンビニ、単調な内容の公園、新設校で地域とのつながりが薄かった学校、山の中の耕作放棄地に森が迫り獣害も出る地域、戸数が減り存続が危ぶまれていた集落、不便な離島など、今の日本ではそういう状況が各地に見られます。ところが、「花のまちづくり」に取り組んだ結果、見事にそれらの逆境を、賑わいのある場所に変えていました。どのように変わったのかは、活動の概要をご覧ください。皆様の継続的な活動により、季節ごとに変化する花々や緑があり、集う場所が出来、一緒に活動する仲間がいることで、地域が変わってきていました。更に、例えば、灌漑施設、花苗の提供、林地整備の重機レンタル、観光施設との連携、市民への広報など地方自治体、企業、NPO、一般市民など多くの方々の理解と協力がありました。引き続き、「花のまちづくり」を応援していただきたく思います。今回応募された皆さま、そして受賞された皆さま、是非、楽しく無理なく「花のまちづくり」活動を発展させていきましょう。

大賞受賞者の注目すべき高く評価された取り組み

鳥山 順子氏は、浅間山溶岩流が堆積し表層土壌が乏しい別荘地の土壌を、簡易な土壌改良法を開発して、自生種と栽培種が一体化した見事なガーデンを作り上げています。この手法は表土層の乏しい別荘地の新たな可能性を開くものです。また、鳥山氏は、浅間高原オープンガーデン協議会の主要メンバーとして活動する等地域活性化に大きく貢献し、別荘地での新たな花のまちづくり活動として高く評価されました。

水田 進氏は、限界集落の廃村か存続かの瀬戸際を、花のある風景にその最後の一手を託し集落を救った取り組みです。アジサイ、花桃などが集落の里山に映え、古民家を活かしピオトープを作り小水力発電にも取り組むなど、集落を丸ごと楽しみ、訪れる人たちが移住する動きも出るなど、水田氏の活発な活動が若い人たちを惹き付けています。水田氏の集落を舞台にした花を中心とした総合的な活動の広がりが高く評価されました。

高島 孝子・直宏・千鶴氏は、かつて小菊やキンセンカの生産が盛んだった志々島をまた花の島にしたいと高齢の母孝子さんが始めた花づくりを、息子の直宏さんと妻の千鶴さんも一緒に取り組み、2019年には本コンクールで優秀賞を受賞されました。これを契機に更に多くの観光客が訪れ、クラウドファンディングの活用など他分野の支援者も関わり、花づくりと島の活性化が好循環で発展している素晴らしい取り組みとして高く評価されました。

野間大池公園花学校は、公園の花壇全体の9割以上を花木、宿根草、球根植物が占めるローメンテナンスなナチュラルスティックガーデンが特徴で、夏場においても植物が生き活きとしており、このようなガーデンの構成は大いに参考になると評価されました。また、事業計画や作業予定表を作成しメンバーで共有していること、「大池公園はなだより」として広報していることも団体の部の活動手法として高く評価されました。

牧之原市立萩間小学校は、各学年1クラスずつの学校で約50年間継続して活動し「学校のじまん」として受け継がれています。メイン花壇は全校にデザイン募集をし、学年花壇は児童の自主性に任せているなど、児童全員が主体的に活動していることが特徴です。また、花壇の花を利用したウエルカムフラワー、写真コンテスト、住民への花束贈呈など花を楽しむ活動は、他校でも是非参考にしてほしいと思います。更に、学校の先生・児童・地域が非常にうまくつながっていることが他校の参考になると高く評価されました。

以上、第32回を迎えた全国花のまちづくりコンクールの審査講評を終わります。

なお、今年もコロナの感染状況が見通せないため、表彰式は中止となりました。そのため、報告書の充実や大賞受賞者の活動概要をHPに追って掲載しますので、皆さまの花のまちづくり活動に役立ていただければ幸いです。



浅間山麓地域での新たな花のまちづくり

個人部門 鳥山 順子 群馬県嬭恋村

活動のきっかけと概要

東京で暮らしていた私達夫婦は、60歳を過ぎる頃には仕事を終い違った暮らしをしてみたい、という夢を叶えるため、2007年12月に群馬県嬭恋村に移り住み、翌年春から敷地内の整理を始めました。都会では手に入れる事が難しい広い土地を前にして、「最終的にはどうなっていたいか?」と考えながら体を動かして作業する事は、心地良い疲れと小さな達成感で楽しい体験でした。嬭恋村の浅間高原は、標高2,568Mの浅間山の麓に位置する別荘地で、庭は標高1,220Mにあります。冬の訪れが早く春が遅い浅間高原では、マイナス18℃にもなる冬の寒さ対策や、草花が成長するための土づくり、土地に合った植物探し等、普通の庭いじりしか知らない私には「なぜ?」「どうして!」の連続でした。敷地は、樹齢30年以上の赤松と様々な雑木等が、鬱蒼と繁った状態でした。夫と二人で雑木を切り、100本以上の赤松を伐採、重機で抜根、堆積した松葉を取り除き、大きな石を掘り起こして整地する等、やる事がたくさんありました。なんとか整地が終わり、庭づくりを始めましたが、浅間山の火山灰と噴石で土は少なく、サラサラと水の抜ける土地だったので、土づくりも必要でした。幸い村には牧場が多く、牛糞堆肥が容易に手に入れることができましたので、数年かけて土づくりをしました。そんな時、友人に宿根草や寒さに強い植物を生産し、扱っているナーセリーさんを紹介して頂き、その方が年に数回開催する、花のツアーやオープンガーデンに参加したことが、花や庭づくりの勉強を始めたきっかけです。

活動で努力していること

2016年に、嬭恋村移住・集落支援室が掲げる、地域の活性化と移住促進という趣旨に賛同し「浅間高原オープンガーデン推進協議会」を数名で立ち上げました。移住、別荘住まい、2地域居住、元からの村住まいの方々との交流を深めつつ、ナーセリーさんが開催していた花のツアーを受け継ぎ、試行錯誤しながら、5月初め~7月初めに全5回のオープンガ-

デンを開催するようになりました。会員数は50軒に増え、期間中40軒ほどの会員の庭を開放して頂き、延べ100名近くの方々に来て頂いています。春のオープンガーデンの開催を楽しみにして下さる方々に、良い状態の庭を気持ちよく見て頂くため、日々の手入れが欠かせません。

活動の成果

嬭恋村は都心・近県からの交通アクセスも良く、様々な分野の方が、定住あるいは2地域居住といわれる通い型のライフスタイルで生活されています。庭が仲介役となり、多くの方々知り合う機会も増えました。新しい事に積極的に参加し、オープンガーデンの会員のみならず地域の方々にもお声がけし、交流を深めることで、見聞を広められ、大変良い刺激を頂いています。

今後の展開

嬭恋村に移住して、今年で15回目冬を迎えます。初めての冬は、「何という寒さ!」と驚いたものですが、最近ではマイナス5~6℃なら「今日は暖かいね」という言葉が出るほど、この土地の気候にも慣れ、春の芽吹きを楽しみに待つことができるようになりました。今回このような賞を頂いた事は、今後の励みになり、楽しんで活動していくための大きな力になります。春を待つ楽しみを多くの方々知って頂くため、これからもこの活動を続けていきたいと思っています。





消滅の危機を回避した集落の美しい風景

個人部門 水田 進 兵庫県洲本市

活動のきっかけと概要

生物の多様性と美しい景観をはぐくんできた竹原集落は、高齢化と人口減、獣害被害による耕作放棄地の増加もあり、4世帯8人と言う極小集落になっていました。この美しい豊かな自然と、生まれ故郷を消滅させたくないという思いから、会社を早期退職し、花とみどりによる観光客や交流人口の増加を願い約5,000㎡のアジサイ園づくりを始めました。母も妻もアジサイが好きだったことと、アジサイに造詣が深い先輩女性に出会ったことが、園づくりの始まりです。



活動で努力していること

田んぼを活かしたユニークな観光農園づくりを心掛け、可能な限り手作りにこだわり、小川には水車と噴水を配し、メダカやドジョウ、イモリが泳ぎスイレンやキショウブが彩りを添える、昔懐かしい小川を演出しています。花とみどりによる桃源郷を夢見、四季を通じて観光客や訪問客にゆっくりのんびりと楽しんで頂けるよう、スイレン池も造成し、周囲にはアジサイは勿論のことハナモモ、シダレザクラ、レンギョウ、タチアオイ等を植栽しています。子供からお年寄り、障害者も含めた全ての人に優しいバリアフリーとするため、簡易な舗装も施し歩きやすくしています。草刈りや通路の清掃整備、アジサイの剪定作業等は、経費削減の意味からも家族だけで行っています。「うわー綺麗!」「のんびり出来た!」「楽しかった!」「また来ます!」の声に励まされ、多くの人々の心に沁みる癒しの場になればとの思いで頑張っています。



活動の成果

観光農園の取り組みと、各団体やグループ活動の拠点施設として開放した事により、観光客などの交流人口や関係人口が増加し、消滅寸前集落の危機から脱する事が出来ました。現在、洲本市の域学連携事業に参画して6大学と連携しています。実証実験で導入した小水力発電には各地域から視察団体が数多く来られるようになり、小学校の再生エネルギー学習の場ともなっています。竹原を出発点とする淡路島口ングトレイルコースも一般参加者が次第に増え、登山の拠点施設として喜ばれています。特定外来植物ナルトサワギクの除去と染色イベントも恒例になってきており、生態系の大切さを多くの参加者が痛感されています。集落内に空き家を活用したおしゃれなレストランが開店したことも大きい出来事の一つです。月替わりで多国籍料理を提供する異色のレストランです。さらに、地域起こし協力隊員として30歳代家族4名が東京から移住して来られ、現在、集落の古民家を改造しています。完成後は、山里の原風景や満天の星空を楽しめる集会所兼宿泊も可能な施設になるようです。京都から移り住んで来られた若者夫婦は、私が長年栽培していた原木椎茸栽培を継業してくれ、「椎茸狩りと炭火焼」のサービスも提供すべく出番を待っている状況です。椎茸栽培場の増設も計画しており、竹原産の原木椎茸が出回る日も近いと思っています。

今後の展開

「山里の原風景に溶け込んだ花とみどり」をコンセプトに、一帯に花木を植栽し、桃源郷のごとく癒しと安らぎを与えられる地域を目指していきたいと思っています。若い移住者が3組も加わり、住民や当園とのコラボレーションもいくつか考案されており、今以上に魅力的な里山になると確信しています。自然豊かな集落が、花とみどりによって交流できる拠点として、さらに拡大発展できるよう取り組んでまいります。



都市の四季を彩るナチュラルスティック・ガーデン

団体部門 野間大池公園花学校 福岡県福岡市

活動のきっかけと概要

野間大池公園は、福岡市南区にあり、面積 40,892 ㎡、洪水調整地としてすり鉢状の地形をしています。2006年に地元のシニアクラブ会長の呼びかけで、ゴミ拾いや清掃と共に花を植える活動が始まりました。全長1kmの植樹帯は樹木もまばらで、土は砂利混じりや粘土質の、植物を育てるには不向きな土地でした。コーヒー豆の麻袋をプランターの形に折り、培養土を入れ、コスモスの種を蒔くことから始めました。並行して、固い土地を耕し、堆肥を加えて土を改良し、地域の人たちから寄せられたスイセンやアガパンサスを植え、ヒマワリの種を蒔きました。公園内には散水栓がなかったので、ペットボトルに水を入れて運びました。水やりの量も回数も充分ではなかったのですが、不思議に枯れるものは少ない状況でした。2008年に「植え付けた時以外は水やりをしない」というコンセプトで作られた英国のバス・チャーター ガーデンがテレビで紹介されました。それまでの経験から、多くの植物は一度根付けば天水だけでも育つと感じていたため、当公園でも可能と考え取り入れました。2013年からの改修工事で花壇が増設され、2018年の春、仮植えていた植物をそれぞれ適した場所に定植し、新しい植物を加えながら現在に至っています。



活動で努力していること

16名の会員は、作業を楽しみ、作業を通して植物を育てる知識と技術を身につけるよう努力してきました。植物の種類が増えるにつれて、「名前ラベルを付けてほしい」との声が寄せられましたが、ラベルを付ける作業は思いのほか難しいものでした。名前がいくつもある植物はどれにしようかと迷いますし、株元に挿したラベルは植物が茂ると見え

なくなりやす。市販のラベルに油性ペンで書いたものは、雨風にさらされて読みづらくなる、劣化して割れてしまうなど、耐久性の面からも課題が多く、試行錯誤を続けてきました。今は、手作りのおおきめのラベルに子供たちも読めるようにカタカナで表記し、英語名も併記したものに差し替える作業を進めています。

活動の成果

植え付けた時以外は水やりをしないガーデニングを続けて、10年以上が経過しました。花壇は、小花木や宿根草、植えばなし球根をメインに、少しの一年草とこぼれ種で芽生えた植物が彩りを添えています。蝶が好む蜜を出す花や、食草となる柑橘類の木も植えています。コロナ禍にあっても、公園の中は、蝶やセミを追う子供たち、スマホで花の写真を撮る人、名前ラベルや説明板を熱心にみつめる人の姿が日常の風景となっています。現在、207種類、386品種の植物が春夏秋冬、園路を巡る人を楽しませており、採れた種や殖えた球根は、他のボランティアグループにも提供しています。

今後の展開

急速に進む気候変動のもとで活動を維持・継続していくためには、高温と乾燥に適應できる植物の選択、栽培管理等、さらなる工夫が必要と思われる。秋の校外学習で、ハーブの香りを嗅ぎ、月桂樹の冠を頭にのせてはしゃぐ小学生が、高齢者のおしゃべりをはずませるひとときが再び訪れることを願って、折々の公園の様子をSNSで紹介し、タウン誌に寄稿するなど、情報発信を続けていきたいと考えています。





※写真提供：三豊市観光交流局（上/下左）

復活を遂げた花の島、天空の花畑 個人部門 高島 孝子・直宏・千鶴 香川県多度津町 / 活動地 香川県三豊市

活動のきっかけと概要

三豊市の志々島は瀬戸内海に浮かぶ周囲4kmの小さな島です。かつては「花の島」と呼ばれ、花卉栽培が盛んでした。島全体に花畑が広がり、空から見ると花のパッチワークのような島でした。島で最後の花農家であった母(孝子)も、父の死をきっかけに花作りをやめてしまいました。現在88歳、島で一人暮らしをしている母に、花のある生活をさせてあげたいとの思いで花作りを始めました。売るわけでもなく、誰かに見てもらうわけでもなく、ただ自分たちのきれいな花が咲いてほしいとの思いだけで、昔のような花いっぱい島を復活させようと始め、現在の活動となっています。

活動で努力していること

島外居住の私達夫婦(直宏・千鶴)は、毎週末に島に帰り、母と一緒に花を育てたり山の整備を行ったりしています。私達の花畑は島の小高い丘の上です。島の南面のなだらかな傾斜地に沿って花々を植え、その背景に瀬戸内の海と島、そして対岸の山々と澄んだ青空が広がります。この風景が大好きでここに花畑を復活させようと始めました。しかし島の畑は、水道も電気もありません。もちろん車も耕運機が通れる道もありません。20kg近い肥料や農機具はすべて背中に背負い、急なあぜ道を登っていかねばなりません。水やりも同じです。この厳しい環境下で、いつまで続けられるか不安です。花畑のシーズンは春の3月中旬から6月中旬の3ヶ月間ですが、この期間の為に1年中草抜きや育成をしています。一年中いろいろな花を楽しみたいのですが、すべてが人力作業の島の畑ではこの期間が限界です。夏の暑さで芝桜が全滅し、一から植え替えたこともあります。



活動の成果

私達はこれまで、自分達がきれいな花畑を見ることで満足していました。以前は、観光客のお言葉も「大変ですね」「きれいですね」といったものでしたが、最近は「これからも続けて欲しい」「この景色をずっと先まで残して欲しい」という声が多くなりました。メディアでも取り上げて頂く機会があり、全国の方から「感動した」「行ってみたい」とのお言葉を頂くようになりました。この春も全国各地より多くの観光客が志々島に来島し、花畑を楽しんでくださいました。通常なら数人しか乗客のいない定期船も、春の期間には多くのお客様があふれ、積み残しが出るほど賑わった日もありました。島の休憩所も観光客で活気づき、島民や関係者の方々も大変喜んでくれました。三豊市や志々島の観光に役買ったのではと自負しています。



今後の展開

昨年秋にクラウドファンディングにチャレンジしました。「花畑でゆっくりしてもらおう」「お弁当を食べたりして心を癒してもらおう」という気持ちと、花畑に付加価値をつけてインフラ整備をしたい、との願いからでした。全国各地から多くの温かいご支援やご声援を頂き、本当にありがとうございました。島での作業はなかなか前に進みませんが、一歩ずつ夢に向かって進んでいます。現在は春3ヶ月の花シーズンの為に活動していますが、今後は、一年中花や花木を楽しんでもらえるようにしたいと思っています。そして、町おこしイベントへの参加など島民や地元の方々との協力し、瀬戸内海を代表する花畑になることを願って、続けていこうと思っています。



花と心を育てる活動は‘学校のじまん’ 学校部門 牧之原市立萩間小学校 静岡県牧之原市

活動のきっかけと概要

本校は自然豊かな地域の学校です。1973年に開校100周年記念として前庭の花壇が作られ、全校挙げて「花と心を育てる教育活動」に力を入れてきた歴史があります。それ以降、長年にわたり、子供たちや地域の人に愛され、「学校のじまん」として児童や地域の方々へ受け継がれ、来年は150周年を迎えます。本校の門をくぐれば左手に花壇が広がり、子どもたちは、登校時には美しい花壇を眺めながら元気に挨拶を交わします。花づくりは、種まきからすべての活動を「花いっぱい委員会」を中心に、地域ボランティアさんの協力を得ながら、児童主体で行っています。それぞれの学年の発達段階に合わせて、自分たちができる活動に取り組んでいます。



活動で努力していること

「地域と共にある学校」を大事にし、体験的な学習を通した「学ぶ力・生きる力」の育成は、児童の学びの土台になっています。花づくりを通してつながりが生まれ、そのつながりが広がり、新しい学びに発展します。定植して苗が大きくなるまでの地道な作業は、時間がかかり大変ですが、花いっぱい委員会を中心に丁寧に行っています。水まきや草取り等の活動も、地域の方々に協力して頂きながら全校のみんなで行っています。苦労を経験する中で生命あるものを大事に育てる心を育むことを大切にしています。育てた花の苗は、地域にも広くプレゼントし、花づくりを通して、地域との交流も深めています。

活動の成果

花だけにとどまらず、恵まれた環境を活かしています。茶所「牧之原」の伝統を学びながらのお茶摘み、新鮮なお茶の葉で作るお茶の

天ぷら、校内で採れた梅を活用した梅干しや梅ジュース作り、じねんじよの栽培、米作り体験等を行っています。多くの人と出会い、たくさんの感動体験をつなぎ、身近な自然から関心を高め、地場産業について学ぶことにもつながっています。米作りの後の藁は、畑の敷き藁にしたり、苗床に敷いたり、花壇や校内の畑の栽培活動にも活かしています。花壇や畑から出た草は、ねかせた土に加えて再利用しています。こうした方法も、地域の方々から教えて頂き、学びを深めていくことができました。コロナ禍で、学校の様子を地域の方に直接見て頂けない状況が続いた時には、学校の取組や学校のよさを新聞にまとめ、地域へ発信する活動を行い大変好評でした。新聞に使う写真は、全校から募集しました。低学年の子も、自分で気に入りの写真を撮って提出しました。全校みんなで作った心温まる、読む人が楽しめる新聞でした。フォトコンテスト期間中には、たくさんの子供たちが花壇に集まり、学校の花壇を「じまん」として発信したい気持ちが伝わってきました。



今後の展開

今年度の花壇のデザインは、「見る花壇から楽しむ花壇に」と、花壇の中にれんがの道を作りました。遠くから見る花壇ではなく、花をより近くに感じ、観察したり、香りを楽しんだり、みんなに様々な楽しみ方をしてもらいたいという思いからです。今年度のフォトコンテストでは、広く地域に声をかけ、皆さんで花壇の花を楽しんで頂けるように企画しています。今後も、地域の方々と共に、子どもたちが主体的に花壇づくりに関わっていけたら嬉しく思います。

市町村部門 鴻巣市

埼玉県鴻巣市



鴻巣市では、2005年、合併により現在の鴻巣市となった際、市の将来都市像を「花かおり 緑あふれ 人輝くまち こうのす」と定め、2020年には新たに「花と緑の都市宣言」を行って、行政と住民の協働によるまちづくりを進めています。玄関口である駅前花壇の花飾りでは季節の花を用い、このすフラワーロードではハンギングバスケットとプランターの花飾りに地元産の花苗を用いています。市内を流れる荒川の河川敷は、以前は不法投棄が問題になっていましたが、今ではポピーやコスモスの花畑に生まれ変わり、市内外から多くの方が訪れる名所となりました。市全体で「花のまち こうのす」を実践し、花を活かした地域の活性化を進める姿勢が高く評価されました。



団体部門 伊賀野の花畑

群馬県みなかみ町



荒れて雑木林となり、獣害も出ていた先祖からの桑畑を、水上町内の有志と開墾して、花づくりを始めました。各地を視察してコキアと菊を植えることにし、2011年から苗づくり、定植、補植を始めました。二種類に絞った花畑としたことで、コキアの柔らかい緑と紅葉が山並みに映え、特徴ある広場になっています。普及啓発にも尽力しながらアジサイの植栽も開始し、周辺の観光果樹園や道の駅とも連携しています。花畑はドローン練習場としても開放し、愛好家のネットワークやホームページなどで効果的な情報発信がされています。中山間地域にありながら、様々な分野の方々と広く関係を持ち、新しい活動の広がりが期待できる点が高く評価されました。



市町村部門 館山市・株式会社塚原緑地研究所

千葉県館山市



館山市は、古くから花卉栽培が盛んな地域で、市内には一年を通じて花の景観が広がり、市政方針にも「お花と笑顔があふれるあったかふるさと館山」を将来ビジョンとする花のまちづくりが明文化されています。地域の特徴的な資源であり景観の大きな構成要素となる「花」を活用したまちづくりを推進し、住民参加型の多彩なイベントや講習会を定期的実施するなど、花のまちづくりを担う人づくりも含め、まち全体の更なる魅力向上への取り組みを展開しています。景観を主体とする従来の活動に加えて、植物や園芸の効果効用に着目した、園芸福祉の視点を取り入れた新しい花のまちづくりに、市全体で取り組む姿勢が高く評価されました。



団体部門 エコガーデンはるひ野

神奈川県川崎市



はるひ野町内会の環境部会における、家庭の生ゴミを堆肥化しようという運動をきっかけに、できた堆肥の有効活用と地域の緑化・美化を目的に、2012年より、殺風景だった駅前の空き地に花壇を作って活動しています。2020年からは、よこみね緑地遊歩道入口の管理も加わり、24名の会員が地域に根ざした緑地保全の一翼を担っています。駅前花壇では、限られた面積を上手に活かしながら、冬～春花壇、夏～秋花壇を4つのグループが順番に担当し、地域の町内会や子供会、近隣の幼稚園とも交流しながら活動しています。生ゴミを堆肥化して活用するという環境に配慮をした活動内容や、限られた面積を上手に利用した美しいデザインの花壇などが、高く評価されました。



団体部門 あじさいボランティア

神奈川県相模原市



相模原市主催の「あじさいボランティア講座」に参加した有志が中心となって、2001年にボランティア団体を立ち上げました。市の花であるアジサイを市民に普及することを目指し、麻溝公園を拠点として、11名の委員が約300品種、7千本の維持管理に取り組んでいます。毎年6月に開催されるアジサイフェアでは、会員が育てた挿し木苗400株を来園者に配るとともに、来園者にガイドや園芸相談なども行っています。さらに、挿し木講習会やリース作り講習会の開催や、パンフレット制作も手がけるなど、市民へのアジサイの普及に努めています。行政からの信頼も厚く、栽培技術の向上に努め、多くの人々と交流しながらアジサイの普及や品種の保存に取り組んでいる点が、高く評価されました。



団体部門 富山市立新庄北小学校&地域団体

富山県富山市



新庄北小学校は、2010年に新庄小学校から分離し、新設校として開校しました。その際、親しかった友達と別れて元気がなかった児童たちを励ますため、3年生を対象とした、地域団体との異世代交流による花壇づくりが始まりました。学校脇の農業用水沿いにある「123mの花畑」と名付けられた花壇は、秋に採取した種や鉢上げした花苗を、翌年の3年生が引き継ぎ仕組みで、デザインはそれぞれの班ごとに考えるため、個性のある花壇となっています。「123mの花畑」の反対側にある花壇では、地域団体が管理する芝桜やヒガンバナ、コスモスが季節の移り変わりを知らせてくれます。学校と地域団体と連携した活動が非常にうまく機能している事例として高く評価されました。



団体部門 天浜線 人と時代をつなぐ 花のリレー・プロジェクト

静岡県浜松市



浜松いわた信用金庫とはままつフラワーパーク、天竜浜名湖鉄道が母体となり、2018年から天竜浜名湖鉄道の18駅や沿線を中心に、区間ごとに担当を決めて管理するアダプト方式の花壇づくりを展開しています。アダプトのメンバーには沿線の多くの企業・学校・団体が所属し、異業種交流や地域・世代間の人的交流が活性化するなど、地域コミュニティの再生や地域振興に大きな役割を果たしています。地域住民のシビックプライド(市民としての誇り)の醸成にも繋がっており、その取組みは「点」から「線」、そして「面」へと拡がりを見せています。鉄道を軸に、組織・運営の体系化が大きな成果を生み出した模範となるべき事例として高く評価されました。

団体部門 上丹生プロジェクトK

滋賀県米原市



21世紀のまちづくり事業の一環として結成された、上丹生まちづくり委員会「プロジェクトK」のメンバーを中心に、2003年から休耕地でのチューリップ畑づくりを行っています。チューリップ畑はオーナー制で維持され、地区外からも多くのオーナーが参加しています。オーナーは、植込み、チューリップ祭り、持帰りが可能な球根の掘取りなどに参加でき、楽しみながら協力できる工夫が見られます。チューリップ祭りは恒例行事として定着し、地域・世代間の交流のほか、小・中学生の愛郷心の醸成や、高齢化した旧メンバーの外出機会の増加にも繋がっています。地域住民の自助・互助で休耕地をコモンスペース(共有空間)に変貌させた事例として高く評価されました。

団体部門 広棚 花の里グループ

徳島県美馬市



両親が倒れた後、過疎化した中山間地域にある実家の畑が荒れていくのを見て、花の咲く中で親を見送りたいと、三姉妹が1996年から畑に芝桜を植え始めました。美しい風景が見られるようになると、「広棚花の里」と呼ばれる名所となり、口コミやインターネットで評判が広がり、県内外から見学者が訪れるようになりました。当初は三姉妹で活動していましたが、地元住民が集まって芝桜まつり実行委員会が立ち上がると、県・市の行政、大学等の協力が得られるようになり、2018年からは花の里グループとして活動しています。2011年に個人部門で農林水産大臣賞を受賞された後も、グループとして継続発展的な活動を行っている点が高く評価されました。



個人部門 佐野 誉志照・恵美子

静岡県浜松市



2004年の浜名湖花博に職務で携わったことを契機に花のまちづくりに着手し、退職後に自宅200㎡での花壇づくりを開始、オープンガーデンを14年間実施しています。市の協働センターの花の会にも所属して、公民館などの花飾り、オープンガーデン参加者を増やす運動などを行いながら、近隣の協働センターでの花づくりの講師や、解散した花の会再開などにも貢献しています。地区内の協働センターでの花苗の生産のほか、独学で会得した発芽率の高い播種技術でプラグ苗の生産提供も行い、広範囲な花のまちづくりの支援体制を確立しています。地域の花のまちづくり活動の中心的存在であり、新しい植物づくりにも挑戦するなど、情熱を持った実践活動が高く評価されました。



個人部門 福田 具可

群馬県中之条町



地元・中之条町での取組みは1983年より約40年と長く、自宅敷地、自宅前道、背後の山林5,000㎡から始まった活動の成果は、町営の中之条ガーデンズ、町役場の花のまちづくり課創設へと広がっており、地域社会や行政への働きかけなど、花のまちづくりの理念継承と普及啓発に高い意欲を持って活動しています。農村地帯で古くから親しまれている植物の活用、里山で見られる多様な植物の育成と景観保存を中心とする理念と育成技術は、省力化され持続可能な無理のないものであり、広く学ぶべき事例といえます。長年の優秀な活動は、個人による花のまちづくりの原点であると同時に、活動を町全体に広げ、花のまちづくりを先導した功績が高く評価されました。



企業部門 セブンイレブン潮芦屋店

兵庫県芦屋市



阪神・淡路大震災の復興住宅がある人工島住宅地で、店舗前の緑のプロムナードを活用して、2016年から花壇づくりを行っています。オーナーから花壇づくりと維持管理を依頼された個人を中心に、ボランティアやオーナーの会社の社員が日常の管理を手伝い、人手がいる作業時には店舗スタッフの協力、苗の生産には幼児教室生徒の参加もみられます。花壇が整備されたことによるゴミ投棄の減少に加え、高齢者や女性、親子連れが店舗外のカフェスペースでくつろぐ機会の増加など、コミュニティの再生に繋がっています。各地で地域住民の居場所づくりが課題となる中、花による地域コミュニティの拠点となっている点が、新たなコンビニのモデルとして高く評価されました。



高岡市立醍醐公民館 花と緑の推進部会



団体部門

富山県高岡市

松崎町花の会



団体部門

静岡県松崎町

掛川市立千浜小学校



学校部門

静岡県掛川市

NPO法人にじのかけ橋



団体部門

兵庫県西宮市

下里とも子ガーデン



団体部門

和歌山県那智勝浦町

末松 和佳子



個人部門

兵庫県神戸市

五霞町立五霞中学校



学校部門

茨城県五霞町

長岡市立桂小学校



学校部門

新潟県長岡市

寺尾 康男・桂子



個人部門

兵庫県朝来市

団体部門

大湯「パンジーの会」



秋田県鹿角市

しもつけオープンガーデンクラブ



栃木県下野市

風花待夢



愛知県豊川市

いきいき刈谷友の会
ガーデニング部会



愛知県刈谷市

特定非営利活動法人
田原菜の花エコネットワーク



愛知県田原市

上中の原団地
ボランティアグループ



神奈川県相模原市

上堀駅を愛する会



富山県富山市

前沢カンナロード実行委員会



富山県黒部市

緑花クラブK O B E



兵庫県神戸市

網干公園みどりの会



兵庫県姫路市

名塩さくら台景観緑化クラブ



兵庫県西宮市

北部花緑愛好会



富山県南砺市

小瀬戸花いっぱいの会



静岡県静岡市

伊豆の国市商工会女性部



静岡県伊豆の国市

伊丹市フラワーリーダー同好会
8期生



兵庫県伊丹市

寺本自治会 華の部



兵庫県伊丹市

鶉野中町花家族の会



兵庫県加西市

緑地花壇の会



愛知県名古屋市

グルッポふじとう地域住民サポーター
さくらクラブ



愛知県春日井市

社会福祉法人陽和福祉会
どんぐりの森



愛知県春日井市

田辺市神子浜町内会



和歌山県田辺市

古尾花の会



和歌山県田辺市

岩出市まちづくり協議会
花のまち IWADE 委員会



和歌山県岩出市

花てまりの会



和歌山県那智勝浦町

ふれあいガーデン「くすな」



広島県広島市

横川第二公園園芸クラブ



広島県広島市

鈴木 洋一



福島県南相馬市

松本 茂治



群馬県館林市

中西 忠義



福井県越前市

金田第一町内会



福岡県北九州市

諸富花いちもんめの会



佐賀県佐賀市



学校部門

齋藤 等・昭子



静岡県伊東市

益田 満智子



静岡県吉田町

諏訪 早苗



兵庫県姫路市

桑折町立釷芳小学校



福島県桑折町

海南市立巽小学校



和歌山県海南市

みなべ町立高城小学校



和歌山県みなべ町

房谷 弘之



兵庫県姫路市

三村 雅之



兵庫県姫路市

奥川 きみ子



兵庫県西宮市

認定こども園 高見の森保育園



福岡県北九州市



個人部門

後藤 光三・圭子



秋田県大仙市

尾花 幸雄



兵庫県加西市

苅尾 安正・希美子



兵庫県たつの市

松浦 さつき・千春



兵庫県たつの市

太田 よしの



兵庫県香美町

桐原 将臣



和歌山県田辺市

那須 幹夫



和歌山県田辺市

花と緑の銀行 上市支店



団体部門 富山県上市町

かわづ花の会 田中地区花壇



団体部門 静岡県河津町

年輪賞

佐々木 裕哲



和歌山県有田川町

森 千明



和歌山県上富田町

石津 康子



福岡県北九州市

社会福祉法人さつき福祉会
さつき障害者作業所



団体部門 大阪府吹田市

四つ葉賞

石井 康子



福岡県福岡市



企業部門

一般社団法人
御堂筋まちづくりネットワーク



大阪府大阪市

藤枝市花と緑の課・
蓮華寺サポーター



市町村部門 静岡県藤枝市

東鷹栖集落・
JAたいせつ女性部



団体部門 北海道旭川市

若葉賞

東京電機工業株式会社



兵庫県姫路市

戸畑なかしま歯科



福岡県北九州市

しらかわバラの会



団体部門 福島県白河市

有限会社豆蔵



企業部門 愛知県岡崎市